

第5学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「五年生の本だな」 教材名「五年生の本だな」

2 単元の目標

次の学びを目指す。知識・技能では、読書が考えを広げることに役立つと気づき、選んだ本と自分の関心を結び付けている。思考・判断・表現では、読んできた本の傾向を振り返り、考えを広げる次の本を選ぶ。交流や試行の前後を比べ、次の読書の選定理由を見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①読書が考えを広げることに役立つと気づき、選んだ本と自分の関心を結び付けている。（〔知識及び技能〕(3)オ）	①「読むこと」において、読んできた本の傾向を振り返り、考えを広げる次の本を選んでいる。（C(1)力）	①見通しをもって言葉や表現を検討し、交流で気付いた点を基に、自分の読み方や表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

この単元では、考えを広げるための読書を中心に学ぶ。読んできた本の傾向を振り返り、考えを広げる次の本を選ぶ活動を組むことで、言葉について知ることと、目的に合わせて使うことを結び付ける。指導要領の〔知識及び技能〕(3)オとC(1)力に関係する学習である。公式単元一覧では知識事項が中心であるが、本案では言葉を使って見直す活動に関わるC(1)力を関連事項として加えた。成果は、次の読書の選定理由に示した判断と理由から捉える。

（2）児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

（3）指導について

予想される難しさは、同じ内容の本だけを候補にすることである。テーマが近く立場や形式が違う本も比較する。初めの答えを消さずに残し、学習後に何を変えたか、なぜ残したかを比較できるようにする。児童の反応は予想である。実在の学級の姿を示すものではない。読む速さや記述量の差を、そのまま国語の力の差として扱わない。

5 指導と評価の計画（全1時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1 （本 時）	○読んできた本の傾向を振り返り、考えを広げる次の本を選ぶ。 ○考えた理由を交流し、次の読書の選定理由を仕上げる。	知①・思①（学習記録）／態① は関連する学習の記録も合わせて見る。



6 本時の指導 (1/1)

(1) 本時の目標

読んできた本の傾向を振り返り、考えを広げる次の本を選ぶことができる。

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	1 身近な経験と既習の言葉を確認め、今日使う教材や資料を準備する。 ○「今の関心を別の見方へ広げる本はどれか」 【めあて】考えを広げるための読書について、自分の考えと理由を表そう。 〈予想される児童の反応〉 ・別の立場の本も読んで考えたい。 ・どこを確認めれば答えられるか、使う教材や資料を見ている。	本時に使う具体例を見える所へ置く。同じ内容の本だけを候補にする姿が見られても、すぐに訂正させず、どの言葉や経験からそう判断したかを聞き取る。
展開 (分)	2 読んできた本の傾向を振り返り、考えを広げる次の本を選ぶ。 3 本文や資料のどこからそう考えたかを示し、「今の関心を別の見方へ広げる本はどれか」について伝え合う。 4 友達と異なる点を本文や資料で確かめ、読みや説明を見直す。 〈予想される児童の反応〉 ・別の立場の本も読んで考えたい。 ・友達の説明や試した結果と比べ、最初の答えを直すか検討している。	テーマが近く立場や形式が違う本も比較する。知識・技能では、読書が考えを広げることに役立つと気づき、選んだ本と自分の関心を結び付けている。この姿を、使った言葉や読み書きの様子で確かめる。口頭で説明する、対象を指す、教師に記録してもらうなど表し方を選べるようにする。 ◎①読んできた本の傾向を振り返り、考えを広げる次の本を選んでいる。(C(1)力) (本文や資料の根拠と解釈を結んだ記録・交流中の説明)
まとめ (分)	5 次の読書の選定理由を確認め、本時に選んだ言葉や方法と、その理由を伝える。 【まとめ】本は題名や紹介、内容を確認めて選ぶことで、自分の関心や読む目的と結び付く。 6 最初から変えた点、理由を確認めて残した点を振り返る。 〈予想される児童の反応〉 ・自分が選んだ言葉や方法について、確かめたことを理由として説明している。	結論が教師の例と同じかだけで判定しない。今の関心を別の見方へ広げる本はどれかへの答えに、語句や事実を示した説明があるかを見る。課題が残る場合は、次の関連学習でも同じ観点で記録を集める。 ◎知①(次の読書の選定理由と実際の言葉の使用)・態①(単元を通した試行や見直し)

(3) 本時の評価

おおむね満足できる状況は、読んできた本の傾向を振り返り、考えを広げる次の本を選んでいる姿である。本文や資料の根拠と解釈を結んだ記録・交流中の説明を基に判断する。同じ内容の本だけを候補にする場合は、テーマが近く立場や形式が違う本も比較する。読み書きの速さや発表の回数ではなく、本

時の目標に関わる言葉の使い方と判断を捉える。

(4) 板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで右から左へ構成する。右端に単元名と本時の問い。その左に、児童が最初に出した考えと比較する例を置く。中央には考えを広げるための読書を確認する語句や関係を並べ、線や矢印で根拠と判断を結ぶ。左側に次の読書の選定理由で残す項目と見直しの理由を置く。左端は本時に理解できたこととその後を使う場面の記録にする。教科書の台詞や文章はこの配布物へ複製しない。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

